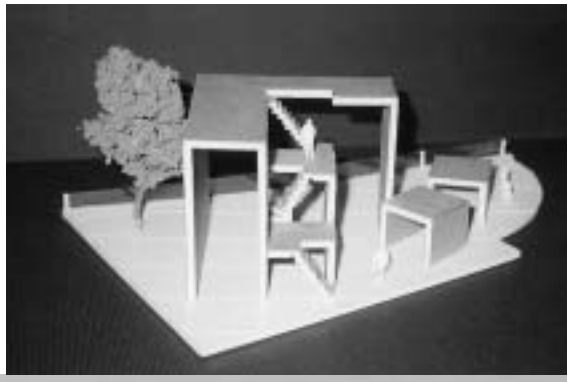
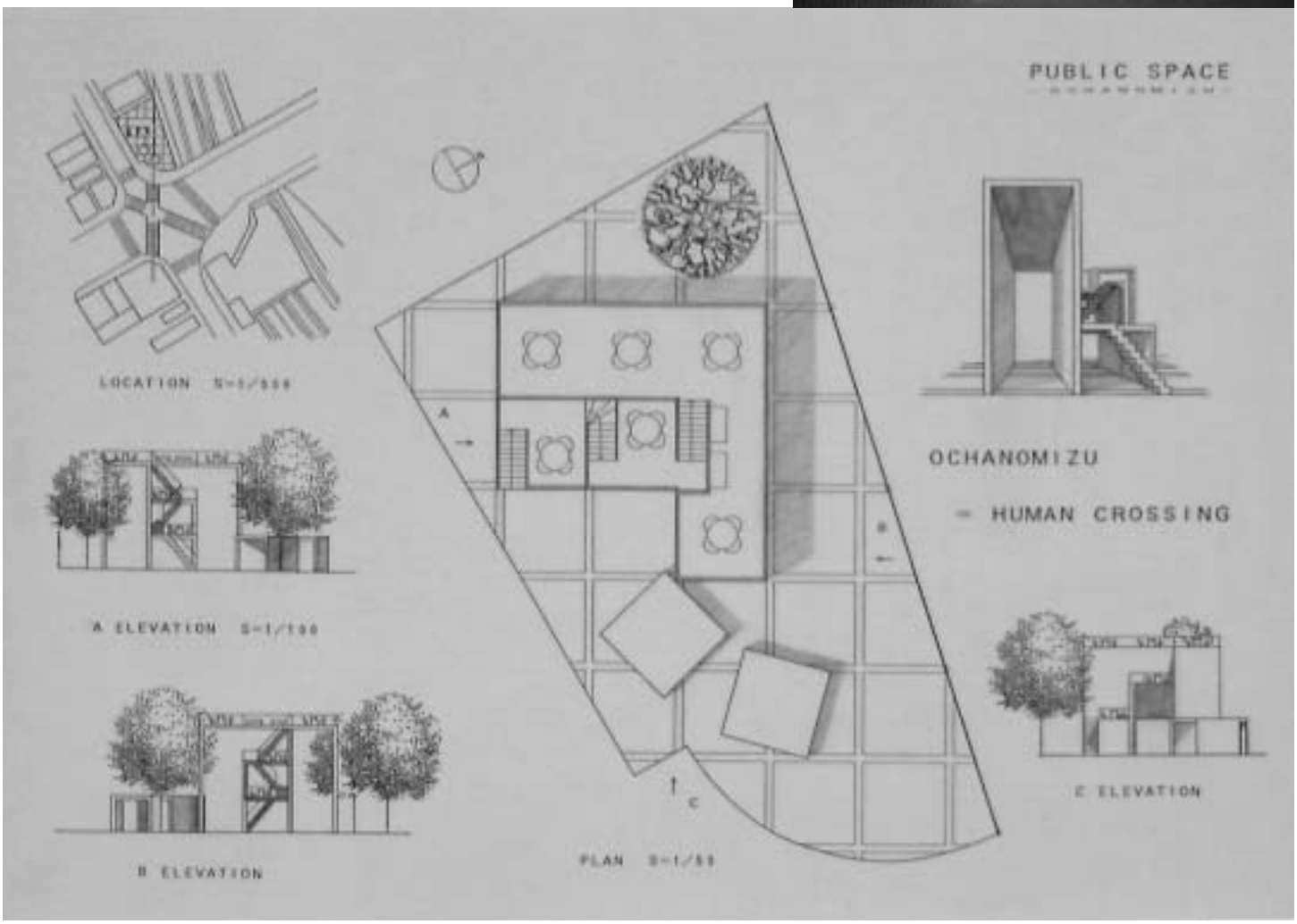


大西　宣明



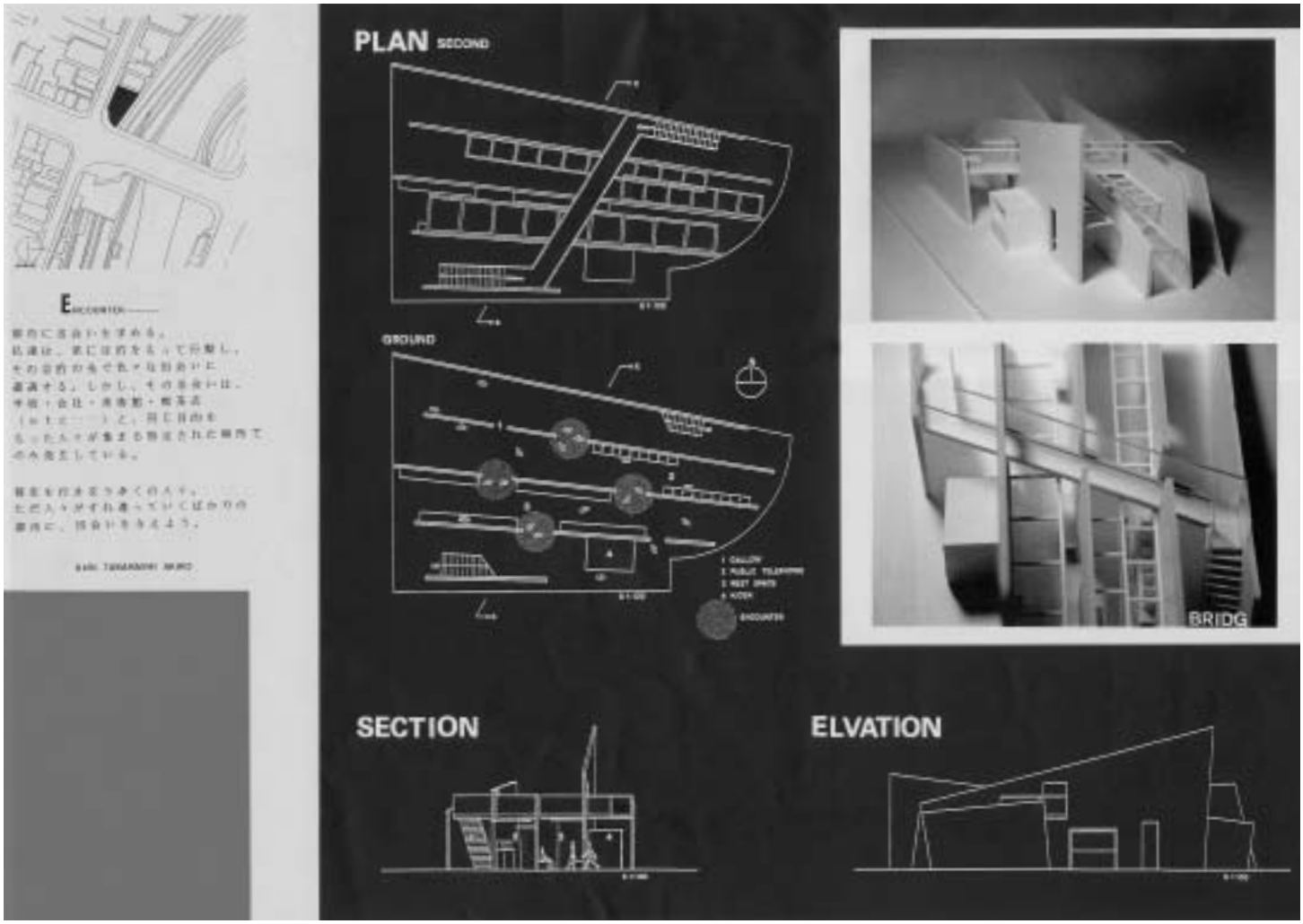
建築設計製図Ⅰ

第２課題
パブリック・スペース

２年１組

担当＝
野村　歓
若色　峰郎
小石川　正男
小松　清路
染谷　正弘
田島　夏樹
田中　雅美

高橋　亜希子



大西　宣明

御茶ノ水駅前を歩いた時、人の多さに比べて歩道が非常に狭く感じました。そこで、自由に歩くことができ、待ち合わせに便利な場所にすることを視点にこの建物を考えました。建物の軸線は交差点に合わせ、歩く人の視覚を意識しています。また、敷地内は建物のあるないに関係なく自由に歩くことができ、神田川の向こうにある緑を見ることができます。

御茶ノ水駅から道路を挟んだ所に、ちょっとした待ち合わせ場所ができたと思います。

指導＝若色　峰郎

街角の造形（物）は、そこに置かれることによって、何か街の雰囲気を引きしめ、人々に新鮮な感覚を与えるものでありたい。その点でこの案はテーマの意図にあった作品だと思う。グリッドを基本としてフレームで組んだ極めてシンプルな形態をしているが、御茶ノ水駅前のスクランブル交差点の方向に合わせてセットされているため、周辺の建物群とは、ある角度をふることになり、このことが、この形態をより強調することにつながっている。

夜間は照明でライトアップをすれば、このフレームを透して見える店舗のファサードが、賑やかさを演出してくれると思う。

高橋　亜希子

「多くの人間が行き交う都市に何かをしかけろ」という先生の言葉を私なりに受け止めて取り組みました。

ギャラリー・公衆電話・休憩所・KIOSK・の４つの機能を持つ、いわばもう１つの都市をつくり、それを５つの壁で区切りました。壁をすり抜ける度に異なる目的を持つ人間とすれ違うことで、何か生み出すことができないかという発想です。

指導＝小石川　正男

近頃街には耳に手をあて、独言を呟いている光景を多く見かけます。

そしてそのサインは電源を切らない限り、どこにでも飛び込んでくる様です。

……ところで我々は都市や街区そのものを、殆どパブリックな領域として受容しているのではないかと思います。その意味で前課題の「住宅」をプライベートとするならば都市そして実際の敷地環境の課題条件の中で、「パブリック・スペース」として学生諸君がどのようなイメージを表明してくれるのか大変興味がありました。

高橋さんの作品は、ダイナミックな壁面を敷地に構成し、その壁面によって生まれるスペースや壁の開口を人や風・光の道として敷地を貫く歩道橋（空中歩廊）とともに連続させた提案です。都市環境の中で、人々は様々な行動様式や不連続な動線があり、また時間の流れの中で多様の情景が生み出されているはずです。御茶ノ水という地域の場所性や都市を解読すると、そこにもっと具体的な機能や用途が明確になったのかもしれません。しかし高橋さんの巧みなプレゼンテーションは、場を利用する限定された意味よりも、そのスペースの存在と、都市の中の限られたスペースの隙間の中で人々によって創造される空間質を想像させる魅力ある作品として評価したいと思います。

あっ！　電話ですよ。……。